「構想する力」としての「思考力・判断力」を高める社会科指導法の研究

所沢市立狭山ヶ丘中学校　長谷川　義博

１．はじめに

少子高齢化，グローバル化，人工知能（AI）の進化や技術革新，外国人労働者の増加等の影響など，将来の予測が困難で社会が大きく変化する中，日本の未来を担う子どもたちに育成するべき，資質・能力も大きく変化してきている。2015年，野村総合研究所は，イギリスオックスフォード大学のマイケル A. オズボーン准教授との共同研究により，国内601種類の職業について，それぞれ人工知能やロボット等で代替される確率を試算した。この結果，10～20年後に，日本の労働人口の約49%が就いている職業において，それらに代替することが可能との推計結果が得られた。

これからの社会を生き抜くためには，AIがいくら普及しようが，AIが持つことのできない，「他者と協働しながら答えのない問題に対して解決策を考える力」や，「他者とのコミュニケーション能力」，「問題の良し悪し，善悪などを判別する柔軟な判断力」などの力が必要とされる。

また，高大接続システム改革会議「最終報告」（2016）では，2020年度から実施される大学入学共通テスト（仮称）において，「思考力・判断力・表現力」を重視することが明記されている。今までの「知識」重視の大学入試を変革することで，高校入試などの学力試験の問題内容だけでなく，小中学校の義務教育段階から，新学習指導要領で求められる「思考力・判断力・表現力」を育成する授業がこれまで以上に求められることは明らかである。そのため，私は，新学習指導要領における「思考力・判断力」に着目し，その中でも，新しく登場した「構想する力」としての「思考力・判断力」を高めるための社会科指導法の研究を研修題目に設定した。

２．研究の目的と手立て

本研究の目的は以下の通りである。

研究の目的
子どもたちが「社会を創る」主体となるために必要な，「構想する力」としての「思考力・判断力」を高める授業のあり方を明らかにすること

以上の目的を果たすために，研究の仮説を以下のように設定した。

研究の仮説
「授業の中で，子どもたちが思考する場面・判断する場面を繰り返し，『社会を創る』活動を重ねることで，子どもたちは『社会を創る』主体となるために必要な，『構想する力』としての『思考力・判断力』を高めることができる」

以上の研究の仮説を検証するために，以下の２つの手立てを講じる。

研究の手立て①
「構想する力」としての「思考力・判断力」とは，どのような力なのか分析し，この「構想する力」としての「思考力・判断力」を高めるためにはどのような学習方法が効果的かを分析・検証する。

研究の手立て②
「社会を創る」主体となる子どもたちを育成するため，他者と協力して新しい解決策を構想する「社会を創る」活動において，どのような指導法が効果的かを分析・検証する。

３．「構想する力」としての「思考力・判断力」

文部科学省は「考察する力・構想する力」としての「思考力・判断力」を「社会科，地理歴史科，公民科における教育のイメージ」（2016）より，以下のように定義している。

・「考察する力」としての「思考力・判断力」
「社会的な見方・考え方」を用いて，社会的事象等を見出し，社会的事象等の意味や意義，特

色や相互の関係を考察する力

・「構想する力」としての「思考力・判断力」
「社会的な見方・考え方」を用いて，社会に見られる課題を把握し，その解決に向けて構想する力

筆者は先行研究として小原友行（2009）の考えや文部科学省の諸資料をもとに，「考察する力」としての「思考力・判断力」（以下，「考察力」と表記する）と，「構想する力」としての「思考力・判断力」（「以下，「構想力」と表記する）を分け，「構想力」を以下のように定義する。

・「構想力」 情報，知識や技能，「考察力」を活用し，より良い社会を創るために，身近な社会の課題の解決策を構想する力 ・「社会を創る」活動 新しい解決策を構想するために，他者と協力する活動

筆者は，以上の「社会を創る」活動を通して，子どもたちの「構想力」を高めることができ，「構想力」を高めることで，子どもたちは「社会を創る」主体となることができると考えた。

４．「構想力」を高めるための授業実践

(1)「構想力」を高める５つの手立て

検証授業において「構想力」を高めるため，以下の５つの授業実践の手立てを考えた。

手立て①	班で協力し，より良い「所沢を創る」政策を構想する活動を通して，子どもたちの「構想力」を高める。
手立て②	子どもたちの「考察力・構想力」の可視化。（政策提案書にトゥールミン図を取り入れる）
手立て③	自分たちで構想した政策を分析・評価をし，思考する場面・判断する場面を重ねる。
手立て④	行政文書やインターネット等の諸資料を活用する。
手立て⑤	外部講師の活用や行政への政策構想の提案など，子どもの学びを社会に開く「社会参加学習」を取り入れ，学校の授業での学びを一層高め，生徒の思考・判断・構想の質を深める。

手立て⑤に「社会参加学習」とあるが，桐谷（2018）は，中学校社会科の学習指導要領改訂を受けて，「新たに求められた学習に，社会にみられる課題の解決策を構想する学習がある」とし，「その際の学習方法としては，合意形成学習や社会参加学習が考えられる」と述べている。筆者は，検証授業を通して，地域の課題を捉え，その課題を解決する政策を構想し，最終的に行政に提案する授業を目指すため，唐木（2008）が提唱する「社会参加学習」を授業に取り入れた。

唐木の「社会参加学習」の学習過程は以下の図１である。

図１　唐木清志の社会参加学習の学習過程

筆者は，上記の図１「社会参加学習」の学習過程の中で，特に「解決策の構想」場面を重視するため，「３．意思決定」場面から「解決策の構想」場面を分けて，１つの学習過程とし，以下の図２の社会参加学習の学習過程を取り入れた。

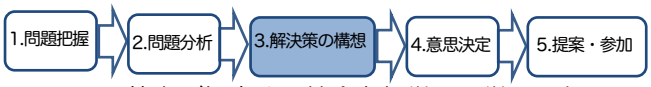


図２　筆者が提案する社会参加学習の学習過程

以上の図２の学習過程を，検証授業の学習過程に取り入れ，「社会参加学習」を実践することで，子どもたちの「構想力」を高めることができることを，検証授業を通して明らかにしたい。

(2)検証授業について

学　年：第３学年　公民的分野

単元名：「地方自治と私たち―より良い所沢を創る－」

①単元の目標

・所沢市長と市議会の関係から身近な地域である所沢市の政治の仕組みを，所沢市の財政から地方財政を，地方選挙の投票率や所沢市民の権利や義務を理解することを通して，地方自治の基本的な考え方や地方自治の課題について理解できるようにする。また，所沢市の行政職員の方からの資料や，所沢市総合計画などの諸資料から市の問題を読み解き，政策を構想する際には，インターネット等の資料を活用する能力を身につける。

（社会的事象についての知識及び技能）

・個人やグループで思考・判断を重ね，地方自治の課題や，所沢市の問題について捉える。「より良い所沢を創るためにはどうしたらよいか」という問いに対し，各グループで政策を構想する活動を通して，「より良い社会」を構想できるようにする。また，クラスで構想した政策を評価する活動を通して，政策の有効性，優先性，持続可能性，実現可能性の観点をもとに，生徒が「より良い社会」の実現のために必要な政策を分析・評価できるようにする。構想した政策は各グループで政策提案書にまとめ，所沢市長へ提案する。
（社会的事象についての思考力・判断力・表現力等）

・所沢市長や市の行政職員の方の話などから身近な地域の政治に対する関心を高め，「より良い所沢を創る」ための政策の構想に主体的に関わる。地方自治に関する一連の学習を通して，３年後には主権者になるという自覚を深め，市民の一人としてより良い社会を築こうとする自治意識の基礎を育成する態度を養うようにする。
（社会的事象等に主体的に関わろうとする態度）

図３　所沢市経営企画課の方からの資料

図４　「社会を創る」活動　班での政策構想の様子

②単元の評価の観点と評価規準

（新学習指導要領の３観点で行う評価規準「社会的事象についての思考・判断」は「構想力」と「考察力」を区別した）

評　価　規　準				
社会的事象についての知識及び技能（主な評価場面）		社会的事象についての思考・判断・表現等（主な評価場面）		社会的事象等に主体的に関わろうとする態度（主な評価場面）
知識	技能	「構想力」	「考察力」	
・事前アンケートから生徒の現状を，市民意識調査から市民の所沢市への要望を捉えることにより，地域が抱える課題を理解できる。 ・身近な地域の政治の仕組みや財政状況を理解することで，市民が持つ権利や義	・諸資料をもとに，身近な地域が抱える問題や課題を読み解くことができる。 ・より良い社会を創るために政策を構想する際，諸資料やインターネット等（タブレット）を活用し，クラ	・身近な地域をより良くするために，地域が抱える問題を把握し，その解決策を多面的・多角的に構想することができる。 ・より良い社会を創るために，既存の解決策を分析・評価するだけでなく，新しい解決策を他者との学び合いを通して，判断規準（政策の有効性，優先性，実現可	・身近な地域の事例を通して，自分たちの住む地域の問題を見つけ出し，地方自治の意義や役割を多面的・多角的に考察することができる。 ・自分たちで構想した政策の中から，より良い社会を創るために必要な政策を判断規準（政策の有効性，優先性，実現可能性，持続可能性などの観点）をもとに分析・評価することできる。（授業プ	・市長や市の行政職員の話や政策の評価などを通して，身近な地域の政治に関する関心を高め，主体的に政治に参画しようとする態度を養うようにする。 ・数年後は主権者になるという自覚を深め，地方自治の発展に寄与しようとする市民としての自治意識の基礎を育成するようにする。 （授業プリント）

務について理解できる。 ・住民自治を基本とする地方自治の考え方が，地方公共団体の政治の仕組みや働きを貫いている基本的な考え方であることを理解できる。 （定期テスト）	スでの政策評価を適切に選択し，活用することができる。（授業プリント，政策提案書）	能性，持続可能性などの観点）をもとに構想することができる。（授業プリント，政策提案書）	リント・政策提案書・政策評価シート）	
		・考察・構想した解決策を，他者に分かりやすく説明したり，行政の立場に提案することができる。 ・自分が考察・構想した考えを，他者との学び合い活動を通して，議論をすることで自分の考えを深めることができる。 （政策提案書・政策評価シート）		

③単元の指導計画と指導の実際（全 12 時間）

※評価の思考・判断・表現のらんの◎は「構想する力」としての「思考力・判断力」，
○は「考察する力」としての「思考力・判断力」と表現力。塗りつぶしは，「社会を創る」活動。

場面	時間	学習内容 学習活動	知技	思判	態度	指導の実際
問題把握	1	生徒，市民の現状把握 平成 30 年度所沢市市民意識調査の満足率と要望率から所沢市の課題について考える	○	○		・生徒の事前アンケートの結果を提示し，市民意識調査の市の施策に対する要望率や満足率のデータから，所沢市の現状を読み取り，市が抱える課題について考える。 ・家庭ゴミの収集など 10 個の仕事を国，埼玉県，所沢市の仕事に分類させ，自治体の仕事について考える。
	2	地方自治の仕組み・地方分権 地方自治の意義 住民投票と市民が持つ権利 資料の読み取り	○	○		・所沢市長と所沢議会の関係などを通して地方自治の仕組みについて知り，地方自治の意義について，「民主主義の学校」という言葉から考える。 ・市で実際に行われた「エアコン設置の是非を問う住民投票」について資料を読み取り，自分の意見を書く。
	3	地方財政の仕組みと課題 市町村合併について トゥールミン図の書き方 資料の読み取り	○	○		・市の財政状況を通して，自主財源の確保や民生費の増大など，地方財政の仕組みや課題について考える。 ・架空の市町村合併を事例に，トゥールミン図を使って，自分の主張を事実や理由もとに，構造的に考える。
	4 講義	所沢市経営企画課職員の方から所沢市の行政の現状と課題，所沢市の政策についての講演 政策構想のための班分けアンケート		○	○	・市の政策を立案している経営企画課の方の話を通して，身近な地域の課題や市に必要な政策を考える。 ・福祉，教育など 14 の分野の中から自分が興味がある分野，問題意識を持つ分野など，希望の班を選ぶ。
問題分析	5	アンケートの希望をもとに班編成を行い，各班の所沢市の問題を考える 各班の一番の問題を決める （各班の問題設定）	○	○		・前時のアンケートをもとに，班を決める。 ・第 6 次所沢市総合計画などの資料をもとに，自分たちの住む所沢市の問題を考え，班員と話し合い，問題を分析することで，班の一番の問題を具体的に設定する。
解決策の構想	6 構想	各班の問題設定 班で設定した問題を解決するための政策を各自でトゥールミン図を使って構想する	○	◎		・各班で問題設定をする。その問題を解決をするための政策案を，個人で具体的に構想する。政策を構想する際，根拠となる資料やインターネット等（タブレット）活用する。

	7 構想	「社会を創る」活動① 各班の問題解決のためにどのような政策が必要か，個人の考えをもとにして各班で政策を構想する	○	◎		・班の問題解決をするための，所沢をより良くするための政策を，個人の意見や他者との学び合いを通して，根拠となる資料やインターネット等（タブレット）を活用して構想する。
	8	クラスで各班の政策構想の発表 各班の政策構想を分析し，評価する		○		・政策の有効性，優先性，実現可能性，持続可能性の４つの判断規準を通して，各班の政策構想を分析・評価をする。
	9 構想	「社会を創る活動② 学級での評価，教師からの評価をもとに政策を練り上げ，政策構想を政策提案書にまとめる	○	◎		・自分たちが構想した政策を，前時発表時の評価や教師からの意見を通して，班での政策構想の質を高める。 ・根拠となる資料やインターネット等を活用して，練り上げた政策を，他者に分かりやすく政策構想をまとめる。
意思決定	10	各班の政策構想を再度分析し，評価する クラスで各班の政策構想の発表クラス代表の政策を１つ選出する		○		・政策の有効性，優先性，実現可能性，持続可能性の４つの判断規準を通して，各班の政策構想を分析・評価をし，市に必要なクラスの代表政策を決定する。
提案	11 12 発表	クラス代表の政策発表会，市長，市職員から構想した政策の評価 より良い所沢を創るための政策を所沢市長へ提案し，クラス代表の政策を学年で分析・評価する，学習の振り返り		○	○	・各クラス代表６班の政策構想を４つの判断規準から分析・評価をし，一連の地方自治の学習を振り返る。 ・所沢市長や市の職員の方からの話を通して，数年後は主権者になるという自覚を深め，地方自治の発展に寄与しようとする市民としての自治意識の基礎を高める。

５．検証授業の分析

(1)生徒が構想した「より良い所沢を創るための政策構想」６クラス全 54 班の問題設定と政策構想

（塗りつぶしの政策は，所沢市の行政に向けて発表をしたクラス代表政策）

組	分野名	班の問題設定	班で構想した政策
1組	福祉①	ところバスの利用者が少なく，バス内のバリアフリーが少ない	老人ホーム近くにバス停を，子どもや老人が乗りやすいバスにする
	福祉②	音響式信号機，弱者感応式信号の設置されていないところでの事故の発生が多い	音響式信号機，弱者感応押しボタン式信号の数を増やす
	交通	通学路の歩道が狭く，危ない	安全に学校に通おう大作戦
	子育て	所沢市の保育士が少なく，子育てしやすい環境が整っていない	子育てベテラン資格をとろう
	健康	インターネットの普及によって，運動不足になる人が多い	とこしゃん体操をより広める
	エコ	所沢市の再生可能エネルギーの使用量が少ない	市の再生可能エネルギーの使用量を多くする
	観光	「所沢は団子」というイメージがない	団子の魅力倍増計画
	文化	所沢には多くの指定文化財があるのに，市民も市外の人も知らない人が多い	レッツゴー，神社カフェ計画
2組	福祉	所沢市は，市内の高齢者が自立するための政策が行き届いていない	高齢者二人三脚計画
	防犯	街灯が少ないため，不審者が出る可能性が高く，事故も起こりやすい	所沢市内に LED 街灯を設置する
	子育て	所沢市民のワークライフバランスの実現がなされていない	所沢市に子どもを預けておける場所をつくる

	教育	生徒が効率良い学習ができておらず，自分の学力はどの位置にあるのか把握できていない	自分の学習状況をデータ化をはかる，そのデータから周りの人との比較や高校選択の参考にできるようにする
	健康①	公共施設が少なく，集まる場所が少ないため，孤独な高齢者が多い	高齢者のための健康体操イベント
	健康②	ガンに対する正しい知識を持っている人が少ないので，年々ガンで亡くなる人が多い	所沢市の公共施設を利用してイベントを開く，ガンに対する正しい知識を身につける
	スポーツ	中学生のスポーツの大会会場が少ないため，距離が遠く交通費がかかる	所沢市に所沢スポーツ文化公園を新設する
	エコ	タバコが地面に落ちていて環境の汚染につながっている	道にタバコの吸い殻を捨てるゴミ箱を設置する
	観光①	所沢市の自然関係や，寺院・神社が多すぎて１つ１つが目立たない	所沢市をより活気のある市にして，魅力や文化を市外に発信する
	観光②	所沢の観光地や公共施設などが有効活用されていない	航空公園やトトロの森など現存する施設を利用して，イルミネーションのイベントを行う
3組	地域	住民同士のつながりが希薄化している	所沢名物宝庫
	子育て	保育士や介護士の人材が足りず，負担が大きい	保育士と老人ホームを近くに建てて，子どもと高齢者が一緒に生活する機会をつくる
	健康	食への関心は高いものの，健康的な食生活を実践している人は少ない	健康寿命，伸び伸び計画
	スポーツ①	高齢者向けの運動施設が多く，小さい子どもが公園などで遊ぶため，中高生が思う存分遊ぶことができない	航空公園内に市民体育館とは違った，学生向けの運動施設をつくる
	スポーツ②	所沢市の中高生にとって，便利に使えてスポットができる場所がない	所沢市にスポーツ場をつくる
	産業	所沢市には，大型のショッピングモールが少なく，買い物が不便	所沢市に大型ショッピングモールをつくる
	観光①	若い人が楽しめる施設，イベントが少ない	若い人が来たくなる，住みたくなる街づくり
	観光②	所沢市には，大人から子供まで楽しめる施設が少ない	駅の近くにトトロ村をつくる
	観光③	所沢市は自然が多いが，自然を生かせる施設が少ない	狭山丘陵に秘密基地みたいな宿泊施設をつくる
4組	福祉	市内の生徒が，特別支援学校や，その生徒に対する関心が低い	市内の公立中学校と，特別支援学校の生徒が共同で模擬店を出店する
	防犯	夕方から，夜にかけて暗くなる時間帯に人気のないところで不審者が多い	ＮＯ不審者　安心して暮らせるまちづくり
	教育①	生徒・児童が数学の「学びノート」を自分の「勉強」として活用できていない	学びノート改革
	教育②	学校の環境が整備されていない	所沢市立学校で快適な生活を過ごせるようにする
	健康	ところん健幸マイレージは，制限により参加できない人が多い	ところん健幸マイレージ強化計画
	スポーツ	所沢市民の運動不足	市民が楽しんで運動しやすい環境，施設をつくる
	エコ	緑の維持，公園の整備が十分でないこと	ポイ捨て犯罪化計画，CO_2減らす計画

	観光	所沢市民プールが中高生に人気がなく，行きたいという人が少ない	所沢市民プールの知名度と収入を上げるために，リニューアルオープンする
	文化	文化芸術活動における後継者の不足	所沢職人大学　建設案
5組	防災	市民の防災意識が高まっていない	防災教育の活性化
	交通	所沢市内を市民が気軽に移動できない，駅から駅への移動が不便	所沢市内の様々な場所に公共のレンタサイクル設置
	教育①	騒音や校舎の老朽化など，学校設備の改善が十分でない	学校設備の改善・改修
	教育②	小中学生の登下校中の荷物が重く，腰や肩が痛くなり，成長を妨げている	教科書の代わりにタブレットを使用する
	スポーツ①	小中学生がスポーツに親しむ機会が少ない	スポーツ団体を小中学校に招き，スポーツ体験をする
	スポーツ②	成人になるにつれて，スポーツをする機会が少なくなっている，市民が気軽に運動できる場所が少ない	気軽にスポーツがしたくなるような施設を増やす
	自然環境	所沢市で十分な暑さ対策がされていない	緑を活用した暑さ対策
	エコ	所沢市民のプラスチック製品の削減意識が高まっていない	プラスチック削減のため，各家庭にエコバックを配る，ビニール袋を集めてリサイクルする
	文化	近代化・グローバル化が進んだことにより，所沢の地域の文化が薄れている	所沢の文化（食・芸能）を知ってもらえるような機会を多くつくり，関心を持ってもらえるわかりやすいものにする
6組	福祉	高齢者が住みづらい市になっている	所沢市の歩道を広くし，古い建物やお店を中心にスロープを増やす
	防犯	市内の防犯の要望度は高いが，市民の防犯意識が低く，犯罪が多発している	ところざわほっとメール登録を義務付ける，犯罪多発地域に防犯カメラを設置する
	子育て①	所沢市の子育てと仕事の両立をはかることが大変	安心して子育てができるように，支援できる環境を増やす
	子育て②	保育所の人材が足りない	保育活動をボランティア化する
	スポーツ①	地域のスポーツに対して，市民（特に若者）の興味がない	子どもと大人がそれぞれの価値観で楽しめるスポーツ施設をつくる
	スポーツ②	大人が子どものスポーツしにくい環境を作っていて，子どもが利用できるスポーツ施設が少ない	子どもスポーツ政策
	観光①	航空公園が日本国内で知名度が高くない	航空公園の知名度を上げる
	観光②	所沢市の観光スポットが少なく，目立たない	所沢市に特色ある観光スポットをつくる
	観光③	目立つ観光スポットが少ない，シャッター街などをうまく利用できていない	所沢市の土地をうまく利用して，オシャレなカフェ街をつくる

図５　政策構想発表会　生徒代表の発表の様子

図６　全 54 班政策提案書を所沢市長に手渡す

(2)班，個人の政策構想のルーブリック（評価基準）

６クラス 54 班の「より良い所沢を創るための政策構想」を評価するために，単元の評価規準をもとに，班・個人の「構想力」のルーブリックを以下のように作成した。

表１　「所沢市への政策提案書②」（班での政策構想）　ルーブリック

		政策提案書②　班での政策構想「構想力」
単元の評価規準		・身近な地域をより良くするために，地域が抱える問題や課題を把握し，その解決策を多面的・多角的に構想することができる。 ・より良い社会を創るために，既存の解決策を分析・評価するだけでなく，新しい解決策を他者との学び合いを通して，４つの観点（政策の有効性，優先性，実現可能性，持続可能性）をもとに構想することができる。
評価基準	A	所沢市の抱える問題を具体的に把握し，所沢市をより良くするための政策が政策構想の理由を支える事実や根拠をもとに分析されており，４つの観点をもとに政策を構想している。
	B	所沢市の抱える問題を把握し，所沢市をより良くするための政策を構想した理由やその裏付けが考えられており，４つの観点のうち３つ以上の観点から政策を構想している。
	C	所沢市の抱える問題や，所沢市をより良くするための政策を構想した理由やその裏付けが考えられており，４つの観点のうち２つ以上の観点から政策を構想している。

また，政策提案書①のもととなった，第６時の個人の政策構想を評価するために，生徒個人の「構想力」のルーブリックを以下のように作成した。

表２　「より良い所沢を創る」政策構想（個人の政策構想）ルーブリック

		個人の政策構想「構想力」
評価基準		・班で設定した問題を解決するための，具体的な政策案を構想することができる。 ・政策構想の理由を支える裏付けに，事実や根拠となる資料を活用することができる。
評価基準	A	各班で設定した所沢市の問題を解決するための政策案が具体的に構想されており，政策構想の理由を支える裏付けに事実や根拠となる資料を活用している。
	B	「より良い所沢を創る」ための政策案が構想されており，その政策構想の理由を支える裏付けに事実や根拠となる資料を活用している。
	C	「より良い所沢を創る」ための政策案が構想されており，その政策構想の理由に自分の考えが書かれている。

以上２つのルーブリックをもとに，第３学年の生徒の「個人の政策構想」と班で構想した「所沢市への政策提案書②」を評価し，以下の表にまとめた。
（表の横が，班の政策提案書②の評価，表の縦が個人の政策構想の評価である。）

表３　班の政策提案書②と個人の政策構想のＡ～Ｃ評価人数（単位：人）

個人＼班	A（18 班）	B（25 班）	C（11 班）
A（63 人）	40	20	3
B（82 人）	19	51	12
C（12 人）	1	9	2

生徒Ａ

（個人の政策構想未提出者 53 人，欠席等９人を除く）

以上の表から，個人の政策構想がＡ評価の生徒　　は学年に 63 人，そのうち班での政策提案書②が

引き続きA評価の生徒は40人となり，B評価やC評価に評価が下がった生徒が23人いた。一方で，個人の政策構想がC評価の生徒は学年に12人，そのうち班での政策提案書②でA評価，B評価に評価が上がった生徒が10人いた。

このことから，個人の政策構想の評価がC評価であった生徒の大多数は，班での意見の深まりによって，政策提案書②の評価が上がっているのに対し，個人の政策構想の評価がA評価であった生徒は，班での「社会を創る」活動を通して，政策提案書②の評価でA評価を維持している場合もあるが，B評価やC評価に評価を下がってしまっている場合も多いと言える。生徒の「構想力」の変容を分析するために以下の生徒Aに着目をして，生徒個人の「構想力」の変容の分析をしていく。

(3)生徒個人の「構想力」の変容の分析

生徒A（6組　防犯　政策名「ところざわほっとメールの登録を義務づける」）

生徒Aは，政策構想の班分けの14の分野のうち，「防犯」を希望し，男子2人，女子3人の5人班を形成した。生徒Aは，個人で構想した政策構想，班で構想した政策提案書②ともにA評価であり，自分たちの班で構想した政策がクラスの代表政策となったため，所沢市長をはじめ市の行政に向けて，政策提案を行った。検証授業　第6時～第9時の「解決策の構想」場面，第11時～第12時の「提案」場面での，生徒Aの「より良い所沢を創る」ための政策構想のワークシートの記述や，班の所沢市への政策提案書，授業後の振り返りから，生徒Aの個人の「構想力」の変容を分析・検証する。

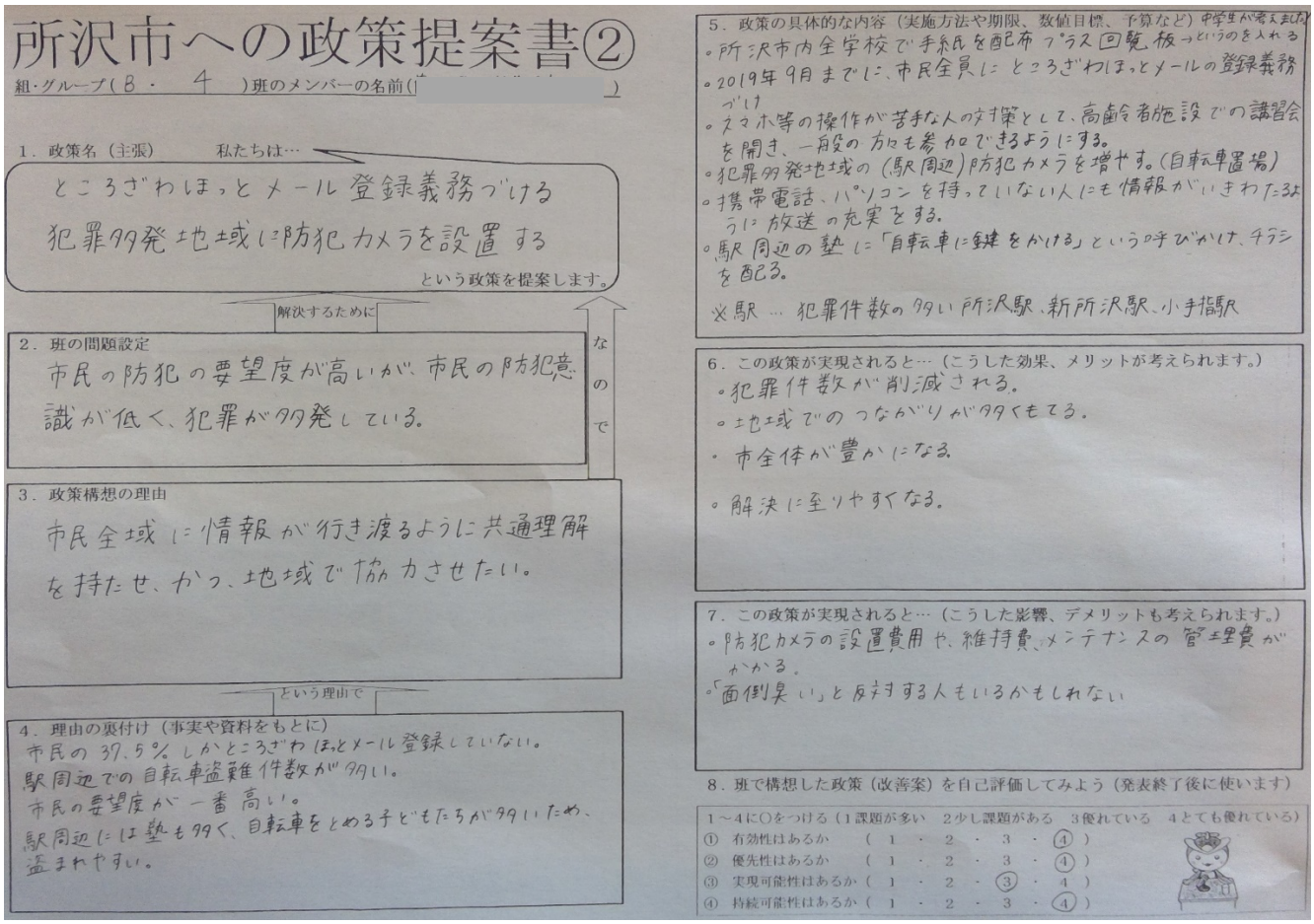
表4　生徒Aの個人の政策構想（第6時），班の政策提案書①（第7時），政策提案書②の比較（第9時）

ワークシートの比較（塗りつぶしの部分は，政策の練り直しによって変容した部分）

	第6時：個人の政策構想	第7時：政策提案書①	第9時：政策提案書②
1 政策名	ところざわほっとメールの登録を義務づける パトロールの充実化	ところざわほっとメールの登録を義務づける 犯罪多発地域に防犯カメラを設置する	
2 問題設定	市民の防犯の要望度は高いが，市民の防犯意識が低く犯罪が多発している	市民の防犯の要望度は高いが，市民の防犯意識が低く，犯罪が多発している	
3 構想理由	市民意識調査では，防犯の要望度が高く，1位だが解決があまりされていないから	市民全域に情報が行き渡るように共通理解を持たせ， かつ，地域で協力させたい	
4 理由の裏付け	・自転車の盗難がとても多く，友達でもとられた人が2，3人いる ・ところざわほっとメールの登録者数は市民の3分の1にすぎない	市民の約3分の1しかところざわほっとメールに登録していない 駅周辺の自転車盗難件数が多い 友達でも自転車を盗まれた人がいる	市民の37.5%しかところざわほっとメールに登録していない 駅周辺の自転車盗難件数が多い 市民の要望度が一番高い 駅周辺には塾も多く，自転車をとめる子どもたちが多いため，盗まれやすい

5 政策の内容		所沢市内全学校で，手紙を配布，プラス回覧板 2019 年 9 月までに市民全員にところざわほっとメールの登録義務付け 犯罪多発地域（駅周辺）の防犯カメラを増やす 携帯電話，パソコンを持っていない人にも情報が行き渡るように，放送の充実をする	所沢市内全学校で，手紙を配布，プラス回覧板 2019 年 9 月までに市民全員にところざわほっとメールの登録義務付け スマホ等の操作が苦手な人の対策として，高齢者施設での講習会を開き，一般の方々も参加できるようにする 犯罪多発地域（犯罪件数の多い所沢駅，新所沢駅，小手指駅周辺）の防犯カメラを増やす 携帯電話，パソコンを持っていない人にも情報が行き渡るように，放送の充実をする 駅周辺の塾に「自転車の鍵をかける」という呼びかけチラシを配る
6 効果メリット		犯罪件数が削減される 地域でのつながりが多くもてる 町が豊かになる	犯罪件数が削減される 地域でのつながりが多くもてる 市全体が豊かになる 解決に至りやすくなる
7 影響デメリット		お金がかかる（設置費用）	防犯カメラの設置費用や，維持費，メンテナンスの管理費がかかる 「面倒くさい」と反対する人がいるかもしれない

図７　生徒Ａの班の政策提案書②　　政策の具体性が増している



所沢市への政策提案書②

組・グループ（B・4）班のメンバーの名前（[redacted]）

1．政策名（主張）　私たちは…

ところざわほっとメール登録義務づける
犯罪多発地域に防犯カメラを設置する
という政策を提案します。

解決するために

2．班の問題設定

市民の防犯の要望度が高いが、市民の防犯意識が低く、犯罪が多発している。

なので

3．政策構想の理由

市民全域に情報が行き渡るように共通理解を持たせ、かつ、地域で協力させたい。

という理由で

4．理由の裏付け（事実や資料をもとに）

市民の37.5%しかところざわほっとメール登録していない。
駅周辺での自転車盗難件数が多い。
市民の要望度が一番高い。
駅周辺には塾も多く、自転車をとめる子どもたちが多いため、盗まれやすい。

5．政策の具体的な内容（実施方法や期限、数値目標、予算など）中学生が考えました

- 所沢市内全学校で手紙を配布プラス回覧板というのを入れる
- 2019年9月までに、市民全員にところざわほっとメールの登録義務づけ
- スマホ等の操作が苦手な人の対策として、高齢者施設での講習会を開き、一般の方々も参加できるようにする。
- 犯罪多発地域の（駅周辺）防犯カメラを増やす。（自転車置場）
- 携帯電話、パソコンを持っていない人にも情報がいきわたるように放送の充実をする。
- 駅周辺の塾に「自転車に鍵をかける」という呼びかけ、チラシを配る。

※駅…犯罪件数の多い所沢駅、新所沢駅、小手指駅

6．この政策が実現されると…（こうした効果、メリットが考えられます。）

- 犯罪件数が削減される。
- 地域でのつながりが多くもてる。
- 市全体が豊かになる。
- 解決に至りやすくなる。

7．この政策が実現されると…（こうした影響、デメリットも考えられます。）

- 防犯カメラの設置費用や、維持費、メンテナンスの管理費がかかる。
- 「面倒臭い」と反対する人もいるかもしれない

8．班で構想した政策（改善案）を自己評価してみよう（発表終了後に使います）

1～4に○をつける（1課題が多い　2少し課題がある　3優れている　4とても優れている）

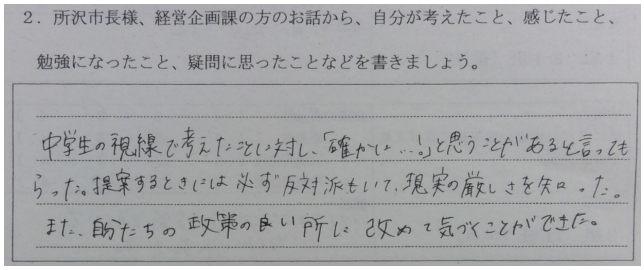
① 有効性はあるか（1・2・3・④）
② 優先性はあるか（1・2・3・④）
③ 実現可能性はあるか（1・2・③・4）
④ 持続可能性はあるか（1・2・3・④）

以上の生徒Ａの政策構想の変容の表や，生徒Ａの班の政策提案書②から，前時の班の政策に対する４観点の評価や，他の班や教師からのアドバイス・改善点をもとに，班の政策の課題を分析し，政策構想の練り直しを行い，政策構想を修正，改善していることが読み取れた。この「防犯」の班は，政策の優先性と実現可能性に課題が見られたが，政策提案書②には，理由の裏付けに「(防犯は）市民の要望度が一番高い」，「駅周辺での自転車盗難件数が多い」という事実を根拠として追加し，所沢市が優先して行う政策であることを訴えている。また，政策の具体的な内容が政策提案書①より詳しく書かれており，前時の発表で他の班や教師から出たアドバイスや改善点をもとに，「スマホ等が苦手な人の対策として，高齢者施設での講習会を開き，一般の方々にも参加できるようにする」，「犯罪件数が多いのは，所沢駅，新所沢駅，小手指駅」といったように，政策構想を修正，改善させており，政策構想の実現可能性が高まったと言える。⑥個人の構想➡⑦班での構想➡⑧政策の発表・政策の分析，評価➡⑨構想の練り直し　という活動を通して，構想の質を高め，新しい解決策を創り出すことができたため，生徒Ａ個人の「構想力」を高めることができたと考える。

第 11，12 時の政策発表会において，所沢市長の生徒Ａ「防犯」班に対するご講評では，「防災行政無線など所沢の防災対策の現状，市の予算のこと，ところざわほっとメールの登録義務化の有効性」など，具体的な数字を出して，生徒Ａが構想した「ところざわほっとメールの登録を義務付ける」という政策の妥当性について話をしていただいた。

以下の，生徒Ａの授業後の振り返りを見ると，行政の専門家である所沢市長や経営企画課の職員の方々から，自分達の政策構想を直接評価してもらうことで，「自分たちの政策の良い所に改めて気づくことができた」と，構想した政策の妥当性を実感することができた一方で，「現実の厳しさを知った」とあるように，政策を実現する際に，必ず反対をする人も出てくることなどを知ることができた。

図８　生徒Ａの授業振り返りより


２．所沢市長様、経営企画課の方のお話から、自分が考えたこと、感じたこと、勉強になったこと、疑問に思ったことなどを書きましょう。

中学生の視線で考えたことに対し、「確かに…！」と思うことがあると言ってもらった。提案するときには必ず反対派もいて、現実の厳しさを知った。また、自分たちの政策の良い所に改めて気づくことができた。

６．研究の成果と課題

(1)研究の成果

本研究において，３年後に主権者となる中学校三年生対象に，18 歳成人として「社会を創る」主体となるために必要な「構想力」を高めることができ，そのために必要な授業のあり方の一端を明らかにすることができた。本研究の成果は，以下の３点である。

成果①:本検証授業で実践した５つの授業実践の手立てが「構想力」を高めるために，有効であることを検証することができ,「社会を創る」活動を重ね，子どもたちが班の構想を練り直すことで，子どもたちの「構想力」を高めることができるという授業のあり方を明らかにすることができた。

本検証授業において，「構想力」を高めるため，授業実践の５つの手立てを講じた。下記の「構想力」を高める授業構造②にあるように，本検証授業において５つの手立てが有効に働くことで，子どもたちの「構想力」を高めることができるということを明らかにできた。

また，１．班の政策構想⇒２．班の政策構想の練り直しという，「社会を創る」活動を単元の中に２回取り入れることにより，他者と協力して自分たちで「より良い地域を創る」ための政策構想の質を高めることができ，その結果，生徒個人の構想力を高めることができた。

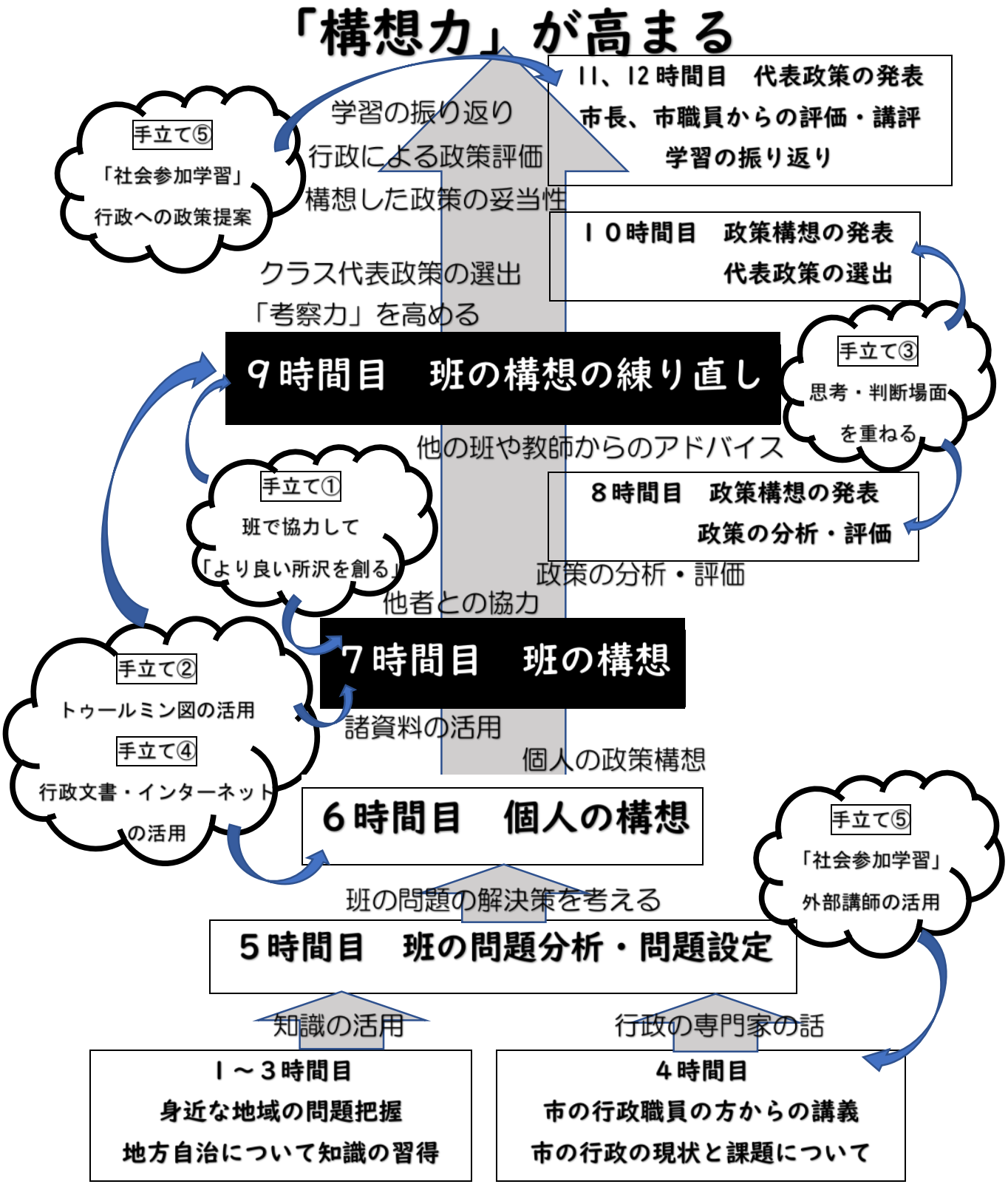
本研究の目的ではないが，本研究を通じて，以下の２つの成果を得ることができた。

成果②:新学習指導要領における新しい時代に必要となる資質･能力のうち,「構想する力」としての「思考力・判断力」を分析・検証することができ，新学習指導要領全面実施に向けた先行実践を実施することができた。

本研究では，令和３年度からの中学校での新学習指導要領全面実施に向けて，「構想力」を高めるための先行実践を実施することができた。

子どもたちが，これからの変化の激しい社会の中を生き抜くために，社会科教師は，今までの教科書の内容を暗記する「知識つめ込み型」の授業を変えていく必要がある。本検証授業では，生徒たちが他者との学び合いの中で，地域が抱える複雑な問題を把握し，その問題の解決策を他者と協力して構想する，新しい中学校社会科の授業を提示することができた。

「構想力」を高める授業構造②（塗りつぶしは「社会を創る」活動）



成果③:所沢市長や市の経営企画課の職員の方々に直接政策を提案する「社会参加学習」の学習過程を取り入れたことで，生徒たちの社会参画の意識を高めることができ，生徒は「社会的有効感」を感じることができた。

今まで，各地で実践されてきた「社会参加学習」や，小中学校の社会科における「問題解決的学習」において，市の行政職員や地域の住民に対して「提案」，「発表」する授業は数多く実践されてきた。

今回の検証授業は，地域の住民から直接選挙によって選出され，予算の編成など様々な執行権を持つ市長に直接政策を提案し，市長から生徒の政策構想に対して評価・講評をいただくなど，地方行政の首長を巻き込んだ社会科の授業を実践できた点で画期的と言える。地方行政の責任者である市長に直接政策を提案することで，生徒たちの学習意欲も高まり，班での学び合いによる政策構想の質を更に深めることができたと考える。また，市長や市の職員の前で発表したクラスの代表政策だけでなく，学年全員で構想した，６クラス全54班の政策を代表生徒から，直接市長に手渡すことができた。

授業後の振り返りに「自分たちで考えたことが，しっかりと形になって成果が表れて良かった」，「私たちの声が直接市に届くのがとても貴重で，大事な体験だと思った」といった意見が見られ，「中学生の私たちでも所沢をより良くするためにできる事があるんだなと実感した」，「中学生でも政策を考える意味があって，社会の役に立てるということを知った」といった意見から生徒が「社会的有効感」を感じることができたことが見受けられた。

また，事前・事後アンケートの結果だけでなく，授業の振り返りに「授業を通して，地方自治に興味がわいたので，18歳になったら選挙に行こうと思った。」，「『こうして欲しい』と思うだけでなく，選挙などを通して自分の意見をしっかり示すことは，とても重要なことだと改めて感じた。」といった記述も見られ，生徒たちの社会参画意識の高まりを実感することができた。

(2)研究の課題

検証授業を通して，本研究の目的を果たすことができた一方で，多くの研究の課題を残した。

まず，新学習指導要領にて新しく登場した，「構想する力」としての思考力・判断力（＝「構想力」）を十分に分析することができなかった。従来の学習指導要領にある，「考察する力」としての「思考力・判断力」（＝「考察力」）や「表現力」との関係性を，明らかにすることができなかったため，イメージ図などにまとめ，それぞれの力の関係性などについて明らかにすることは今後の課題である。

また，「社会を創る」活動において，個人の学習の記録や，政策構想における自己評価，授業ごとの学習の記録をつけていなかったため，個人の「構想力」の変容や高まりを見ることができなかった。

班で作成した「政策提案書」によるグループでの「構想力」の評価とは別に，個人の「構想力」がどれほど上がったのかを可視化するために，個人の「構想力」の変容を観察することができる評価方法の開発が今後の課題である。

また，検証授業を実際に行うことで様々な課題が明らかになった。その課題は，以下の４点である。

課題①：生徒が構想する時間の確保

生徒たちが「より良い社会を創る」政策を構想する活動は時間がかかり，班ごとに進捗状況が大きく異なった。生徒が情報収集したり，構想を練り直す時間も必要なため，限られた時間の中で構想する時間をいかに確保するかが課題である。限られた時間の中でも，生徒たちがゆとりを持って「構想する」活動ができるように，年間指導計画等を見直し，計画的に「構想する」時間を確保する必要がある。

課題②：各班の問題分析・問題設定場面

政策構想の質を高めるためには，各班で自分たちの住む地域が抱える問題を具体的に把握することが必要である。実際に，自分たちの生活実感の中から身近な地域の問題を捉えられている班は，政策構想の質を高めることができているのに対し，身近な地域の問題を具体的に捉えられない班は，政策構想の具体性や実現可能性が乏しい政策

になる傾向があった。生徒が問題を具体的に把握する手立てを考えていく必要がある。

課題③：生徒が「構想する」授業の実施時期の検討

今回，検証授業を中学校３年生対象に１月，２月に実施させてもらったため，高校入試のシーズンと重なり，自分の進路のことで頭がいっぱいで，「構想する」授業に負担を感じる生徒も多かった。

また，インフルエンザ等が流行し，授業を欠席する生徒が多く出たことで，思考や判断の連続性がなくなり，政策構想をまとめることが難しくなった班が出てしまったこと，班で政策を構想する際に，班員がいないため１人で活動をする班があったこと，班長が欠席したことで班で構想した政策提案書が手元にないまま発表をしたり，構想の練り直しをする事態も起こったことなどの問題が発生した。今後，年間指導計画や評価計画とともに，生徒が「構想する」授業の実施時期を検討する必要がある。

課題④：「構想する」授業における配慮が必要な生徒への手立て

教室の中で配慮が必要な生徒が，他者と協力して新しい解決策を構想する，「社会を創る」活動に積極的に参加するためには，普段の授業から小グループの中で，自分の意見を発表させたり，他者の意見をもとに自分の考えを深めたりする活動を積み重ねていく必要がある。数時間の授業で，子どもたちの「構想力」を高めることは不可能である。日々の授業実践の中で，生徒たちが，思考する場面，判断する場面，他者と協力する場面，資料を活用する場面などを，教師が計画的に単元構想に取り入れ，学習計画を作成していく必要がある。

(3)おわりに

本検証授業を通して，子どもたちが，変化の激しいこれからの社会を生き抜くためには，他者と協働する中で，新しい解決策を構想し，より良い社会を創造していく力が必要であることに改めて気づかされた。社会がもの凄い勢いで変化をしている中，社会科の授業も変わっていかなければならない。

本研究では，所沢市長　藤本正人様，所沢市経営企画部経営企画職員の方々，所沢市教育委員会学校教育課の指導主事の先生方，たくさんの方々にご協力をいただき，新学習指導要領が目指す「『社会に開かれた教育課程』の実現」，という新しい授業に挑戦することができた。その中で，教師自身が，学校をこえた様々な立場の人と協働して，新しい授業を「構想」していく必要性を改めて感じた。

今後，本研究の成果と課題を自身の授業実践に生かし，研究を更に深めていきたい。

【参考文献・引用文献】

・文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』2017 年
・文部科学省教育課程企画特別部会『論点整理』2015 年
・文部科学省「社会科，地理歴史科，公民科における教育のイメージ」2016 年
・文部科学省高大接続システム改革会議『最終報告』の公表について　2016 年
・所沢市経営企画部経営企画課「第６次所沢市総合計画（2019～）」2018 年
・新井紀子『AI　vs　教科書が読めない子どもたち』（東洋経済）2018 年
・小原友行『思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン』（明治図書）2009 年
・唐木清志『子どもの社会参加と社会科教育－日本型サービス・ラーニングの構想－』（東洋館出版社）2008 年
・桐谷正信「指導要領改訂を受けて中学校社会科の授業研究はどう変わるか」『社会科教育』（明治図書）2018 年８月号